

門司港と門司税関の軌跡

～ 門司税関 100 年の歴史 ～



本関庁舎そばに残る旧門司港西海岸埠頭の係船柱



昭和初期の門司港西海岸埠頭の様子

門司税関

2009 年 6 月

【表紙の写真】

「本関庁舎そばに残る旧門司港西海岸埠頭の係船柱」(上)

「昭和初期の門司港西海岸埠頭の様子」(下)

上の写真は、昭和6年に完成した旧門司港西海岸埠頭に残る船を係留するための係船柱です。1万トン級の船が7隻係留可能だった旧西海岸埠頭は、下の写真のとおり、昭和初期、大陸航路の玄関口として多くの旅客で賑わった場所でした。

現在、埠頭はさらに沖まで埋め立てられ、外国貿易での賑わいから、観光スポットへと変化しました。

係船柱は埋立工事でも撤去ができないくらい強固なもので、現在もこの地に残っています。遠くには関門橋が見える現在の西海岸地区です。

【発刊にあたって】

門司税関は、明治 42 年（1909）11 月 5 日に長崎税関から独立して、今年でちょうど 100 年を迎えます。

鎖国状態であった江戸時代末期の日本は、安政 6 年（1859）6 月、箱館（函館） 神奈川（横浜） 長崎を外国との貿易を行うための開かれた港（開港）とし、そこに税関の前身である運上所や湊会所が置かれました。

その後、明治初期にかけて、大阪、兵庫（神戸） 新潟の 3 港も開港され、運上所が置かれましたが、その当時、門司には港すらありませんでした。そのような門司に港ができたのには興味深い理由があり、その後の発展により、門司税関が設置されるに至ったわけです。

大正から昭和初期にかけて、門司港は、中国大陆との玄関口として発展を続け、日本有数の港として世界に名をとどろかせました。

このような歴史を中心に、門司港築港とともに歴史を刻んだ門司税関の歴史について、次の世代に伝えるために、記念誌を編集することとしました。

作成にあたっては、現存する資料が極めて少なく、内容その他不十分とお感じになる点もあるかもしれませんが、税関に興味をお持ちの方だけでなく、歴史に興味がある方にも、是非、御一読していただければ幸いに存じます。

本誌編集につき、関係各位の御指導、御協力を賜ったことに対し、厚く御礼を申し上げ発刊の言葉とさせていただきます。

平成 21 年 6 月



第 62 代門司税関長

筒井 和人

第 1 部 本 編

本編 目次

序章 税関とは	1
第一章 門司税関独立と発展 ～栄華を極めた時代	2
第1節 築港前の門司	
1 江戸時代以前の門司	
2 明治初期の門司	4
3 北九州地域の港の状況	5
4 明治初期の門司税関	
第2節 門司港築港	8
1 明治初期の時代背景	
2 門司港築港の背景～石炭輸出	
3 門司の利点	
4 民間による築港計画	9
5 官による計画 ～門司築港会社設立	
6 特別輸出港指定と出張所設置 ～門司税関の大きな第一歩	
7 築港当時の状況	11
第3節 開港へとつながる発展	14
1 日清戦争と門司港の賑わい	
2 軍事色が出てきた門司港	
3 開港に至るまでの貿易等	
4 門司港開港前までの門司税関	17
第4節 門司港開港	18
1 金融の中心地 ～門司港の繁栄	
2 門司市への昇格	
3 開港要望	
4 開港指定	
5 開港した頃の門司税関	19
第5節 門司税関独立	20
1 時代背景	
2 門司税関独立の頃までの門司港貿易状況	
3 門司港の主要輸出入品目推移	21
4 石炭輸出動向	23
5 門司税関独立	25

6	門司税関仮置場	29
7	賞罰内規の制定	
8	関門統合の上申 ~ 門司税関長から大蔵次官へ	30
第6節	大正時代	31
1	大正時代の繁栄 ~ 第一次世界大戦への参戦	
2	大正時代の港湾整備	
3	青島航路開設 ~ 入港船の増加	32
4	大正期の門司港の貿易動向	33
5	大正期の門司税関	35
第7節	昭和初期	39
1	時代背景	
2	門司港の港湾整備	
3	門司港の航路・入港隻数	
4	門司港の貿易	40
5	昭和初期の門司税関	43
第8節	太平洋戦争勃発	45
1	関門港統合	
2	関門鉄道トンネル開通	
3	大陸貿易偏重の門司港	46
4	税関動向	47
5	太平洋戦争勃発から終戦	48
第9節	戦後 ~ 門司税関再開	49
1	連合国軍による庁舎接收	
2	税関再開	
3	当時の税関業務	50
4	門司港の再開	
5	戦後の貿易状況	
6	朝鮮戦争特需に乗り遅れる門司港 ~ 田野浦地区の整備	51
7	対中貿易の落込み ~ 新市場への期待	
8	長崎税関分離	52

第二章 高度成長期以後の門司税関 ～神武景気から平成のあゆみ

第1節 高度成長期

- 1 時代背景と産業 ～神武景気からいざなぎ景気
- 2 新たな産業の始動
- 3 港湾の動き ～コンテナターミナルの始動 ・・・ 56
- 4 税関の動き ～申告納税方式の導入 ・・・ 57

第2節 オイルショック ～円高 ～バブル経済へ ・・・ 58

- 1 時代背景 ～石油危機とインフレ、バブル経済へ
- 2 産業 ～自動車産業の進出
- 3 主力ターミナルの移行 ～コンテナ化への対応
- 4 貿易額の大幅な伸び ～自動車輸出がトップへ ・・・ 59
- 5 新庁舎竣工
- 6 税関の動き ・・・ 60

第3節 平成 ～冷戦終結から多極化の時代 ・・・ 61

- 1 時代背景 ～冷戦終結から多極化へ
- 2 レトロの街としてにぎわう門司港
- 3 産業 ～カーアイランド、シリコンアイランド ・・・ 62
- 4 港湾 ～大型コンテナ船への対応
- 5 貿易 ～半導体と自動車 ・・・ 63
- 6 空港整備 ～福岡空港国際線ターミナルの西側移転と新北九州空港 ・・・ 64
- 7 税関の動き ～消費税導入、電子化、土日対応、AEO制度

第三章 支署の誕生と発展 ～それぞれのエピソード

第1節 下関税関支署

- 門司税関管内最初の官署 ～管轄税関の変更と法令 ・・・ 68

第2節 伊万里税関支署 ・・・ 74

第3節 博多税関支署 ・・・ 77

- 博多港成長の歴史 ・・・ 78

第4節 厳原税関支署 ・・・ 81

第5節 徳山税関支署 ・・・ 88

- 徳山港開港の歴史

第6節 大分税関支署 ・・・ 91

- 管内港のそれぞれの歴史 ・・・ 92

第7節 戸畑税関支署 ・・・ 94

- 若松港の歴史 ・・・ 95

第8節 細島税関支署 ・・・ 96

- 細島港の変遷 ・・・ 97

第9節 宇部税関支署	98
宇部港と産業の歴史	
第10節 岩国税関支署	100
1 岩国港の歴史	
2 岩国基地と岩国空港出張所	
第11節 福岡空港税関支署	102
軍用空港として建設された福岡空港	
第12節 本関直轄出張所	105
1 苅田出張所	
2 田野浦出張所	106
3 廃止された出張所	
現在の門司税関	107
【住所】	
【管轄】	
【管轄図】	
【機構図】	108
【本関の機構】	

【コラム】

門司城	3
三菱誕生 ～海運業からのスタート	7
安場保和（やすばよしかず）～物流に対する先見性	10
門司の最初の官署	12
下関港の状況	12
鉄道開通 ～門司港起点（当時は門司駅）	13
石炭産業	16
産業の勃興 1	22
全国の石炭輸出について	24
大蔵省所管による門司港整備 ～門司税関に大蔵本省の建築部門が併置	31
門司税関長が勅任官に	36
産業の勃興 2	37
大連に事務所開設 ～門司税関大連出張所事務所	44
門司港駅近くの国道に坂があるのはなぜ？	45
中国国旗事件	51

【門司税関 70 年のあゆみ外伝 ～門司税関広報から】

出張所の名称について	7
下関に税関ができたわけ	69
税関が設置されたころの庁舎	71
唐津港の大繁栄	75
設置まもない厳原の庁舎について	82
江戸時代の朝鮮貿易と明治期の貿易動向	84
我が国初の空港税関 ～雁ノ巣飛行場	103

【門司新報の記事から】

門司税関独立のニュース	26
二度の庁舎焼失	27

【用語解説】

開港以外の制度 ～郵船寄港制度と特別貿易港	6
特別輸出港	10
開港外貿易港	17